

## 内閣総理大臣賞

## 社会教育部門

## 「市町村の情報コーディネイトと『知』のデジタル・アーカイブス」

岐阜県生涯学習センター

〒500-8384 岐阜県岐阜市藪田南5丁目14番53号

URL : <http://cscns.csc.gifu.gifu.jp/syozo/center/>

## 実践事例報告の概要

岐阜県生涯学習センターでは、県内の博物館や資料館等の文化財を記録した「バーチャル・ミュージアム」、市町村の地域素材情報をデータベース化した「地域素材情報」、学校での学習に地域素材を生かせるようにした「くらしシリーズ」で、静止・動画情報をアーカイブ化することにより、社会教育施設や市町村の学習資源の情報流通を可能にし、有効な活用ができるような学習情報環境の整備を行ってきた。その成果を報告する。

## 実践のねらい

高度情報社会へと社会全体が進みだし、生涯学習ではそれらの進展に対応した社会教育施設の情報化・活性化を推進することが重要な課題となってきた。この生涯学習社会の発展のためには、各施設、市町村における情報化に対応できる基盤整備と併せ、情報内容の整備が必要とされる。

そこで、岐阜県では、平成9年度より岐阜県生涯学習センターを中心に、情報化の推進とネットワークを用いた学習活動を支援するモデル事業を実施した。

このモデル事業では、人々の学習活動の多様化・高度化を支援する社会教育施設の情報収集・提供と、地域における学習活動が重要であると考え、生涯学習情報を総合的に収集・提供する生涯学習総合情報システムの開発を進めた。その成果として、岐阜県内の公民館・図書館・博物館・美術館・視聴覚センター・科学館・生涯学習センターなどの社会教育施設が有している学習情報や市町村の学習資源の情報流通を可能にし、人々が有効な活用を進められるような学習情報環境の整備を行った。さらに、これらの学習資源を共通に利用できるネットワーク環境を構成、生涯学習における情報化・活性化での利用の研修システムを開発し、衛星通信、遠隔教育システムを用いた研修を進めた。

これらの試行から、市町村等が、地域の文化・教育・産業等の情報を収集・蓄積・流通させ、社会教育施設、学校、家庭等で広く利用できる情報化・活性化を支援する組織および地域資料のデジタルアーカイブ化の方法を構築することができた。

地域資料のデジタル・アーカイブスの目的を整

理すると次のようなことが考えられる。

地域資料などを記録精度が高く映像再現性に優れたデジタル映像の形で記録

各年度にテーマを設定し、企画を立て、静止画および動画情報を収集・記録する。

この、地域資料をデジタル・アーカイブするというとき、地域の知恵の伝承などの「知」をアーカイブするということが大切である。

つまり、地域特有の家屋、たとえば世界遺産で有名な白川村の合掌造りには、雪国の「知」が集積されている。また、木曾三川の一つである長良川の流域には、川のくらしの「知」がある。飛騨の河合村には、山中和紙という雪を生かす「知」がある。

これらの「知」をどのように伝承するか 知の伝承、または、「知」をどのように発見する力をつけるか 知の発見、さらに、新しい知恵をどのように創造するか 知の創造、というプロセスが生涯学習にとって大切となってくる。

このような「知」を伝承するためには、このような「知」をアーカイブすることが必要となる。つまり、地域資料をデジタル・アーカイブすることは、生活と知識の総合化であるといえる。

この地域の「知」は、地域で生きるための生活の知恵であり、「生きる力」であるともいえる。

このことは、「知」をアーカイブし(つくる・ためる)それを情報ネットワークにより発信する(つなぐ)そして、ポートフォリオなどの作成によりコラボレーションを交えながら新しい「知」の創造(いかす・つくる)にスパイラルにリンクする。このことにより、ばらばらの「情報や知」は価値を持たないが、総合化することにより、見えてくるものもある。

## 特徴・工夫・努力した点

生涯学習においては、地域文化や地域の生活による知恵の伝承が必要とされている。また、学校教育では総合的な学習の時間において、地域資料の活用の必要性が問われている。しかし、これらの地域資料は体系的にデジタル・アーカイブされていない。そのために、これらの地域資料を体系的に収集し、インターネットで情報発信すると同時に、その利活用を図ることが求められている。

このような地域の資料をデジタル・アーカイブする視点として、次の4つが考えられる。

まず、アーカイブする対象が、地域の生活であることである。毎年大きく変化しながら、流れていく風景を視点にすることが重要である。高度情報化社会と言われ、この世には情報があふれていると言われながら、意外に知らないのが自分の生まれ育った地域である。地域にあるさまざまな事物をデジタル・アーカイブして見ることにより、これまでに気付かなかったさまざまなものが、地域情報を通して見えてくるようになる。

次に、地域の「知」をアーカイブする視点である。地域の生活に中にある知恵や知識を発見し、アーカイブすることは、知識と生活の総合化のプロセスとして重要である。特に、生涯学習において、生活の「知」を発見することは重要なことである。

3つ目には、地域の伝承という視点である。「20世紀の地域を21世紀に残そう」、「地域に学び、地域から伝えよう」と、地域の資料をデジタル・アーカイブすることは、50年後や100年後には貴重な資料となるはずである。時間の経過とともに周囲の状況は変化し、自分の知識、関心事などにも変化が起きているので、たった一つの素材でも後になってさまざまな発見を誘発される。最後に知の創造という視点である。過去の知と現在の知を総合化するプロセスから、知の創造とい

う視点が見えてくる。また、地域素材は、それが多くの人の中で共有できるようになると、地域全体の文化形成、地域文化の未来永劫に渡る継承という、さらに意義深い社会的共有財となる。

このような、地域の人々に情報を提供するシステムの整備には、地域の人々の参加が必要となってくる。特に、地域の資料収集、情報化には、地域の実情に応じた活動が重要である。

この視点に立ち、情報収集にあたり、各機関・関係市町村の担当者や住民から地域の情報提供の協力を受け、また静止画情報のカメラマンとして、現地の視聴覚連絡協議会の会員を積極的に登用している。

この事業の推進には、いかに地域の人々が主体的に自分たちの学習資源として、収集・整理する組織が構成できるかが課題である。また、このような地域の人々や、大学、学校、社会教育施設などによるコラボレーションを通じたデジタル・アーカイブの活動を、生涯学習の一環として見る必要があるとなる。

## 実践内容

### (1) デジタル・ミュージアムの開発 (資料1)

デジタル・ミュージアム構想では、デジタル・ネットワーク時代におけるアーカイビングの一環として、岐阜県内の博物館や資料館等の社会教育

資料1



施設を地域文化の情報蓄積・発信拠点と位置づけることとしている。本構想の基本的な考えとしては、デジタル画像技術を用いて、有形・無形の文化財を記録するとともに、デジタル化したコンテンツを誰でも自由に閲覧できる仕組みを構築した。

また、地域間の文化財交流を促進するため、情報ネットワークにおいて、情報の登録更新および閲覧を可能にする。さらに、これらの情報を有機的に繋いで横断検索機能を追加したデジタル・ミュージアムを構築し、ポートフォリオなどへの活用を図るなど、各博物館や資料館が主体になって、情報コンテンツを高度に利活用するための環境整備を行った。

インターネットの特性を考えれば、将来は自宅でいながらにして『仮想博物館(デジタル・ミュージアム)』を体験する時代がそう遠くない時代には実現できると考える。そのような発想を発展させていけば、箱からの脱却、つまり施設がなくても仮想博物館をネット上で展開することは、十分に可能である。建築の費用も運営に関わる人件費も大幅な節約ができる。

しかし、その場合、一次資料や二次資料の扱いについては十分に吟味整理されなければならない。特にネットで発信される情報については、発信者の意図がストレートに表現されるため、本来の実物の持つ情報についてどれだけ近づくことができるのか見極めなければならない。

## (2) 地域生涯学習情報の体系化

生涯学習を目的とした地域生涯学習情報は、各専門分野、各地域で、それぞれの立場で開発が進み出したが、その多くはそれぞれの分野で独立し総合的な利用が困難な状況にある。また、各教育委員会での生涯学習のための情報システムは、今後、本格的に組織的な収集・整備が始まろうとしている。そのため、この時期に各方面で検討し、可能なかぎり相互に利用可能なシステムの構成が必要とされる。

これまでの多くの生涯学習に関する情報提供は、ある視点での教材化された情報が主流であった。つまり、ストーリー化された情報であった。しかし、今後、情報発信の支援をするシステムを作成するためには、地域素材情報をデータベース化することが必要となってくる。

そこで、地域素材データベースを構築することにより、教材化の支援などを通じて生涯学習での利用を促進することが大切と考える。

## (3) 「知」のデジタル・アーカイブ推進事業 ～「雪国のくらし」「川とくらし」(資料2) などくらしシリーズ～

地域資料を学習で使う場面は数多く想定されるが、今回は学習指導要領でも特に地域学習を重点的に行う小学校社会科の中学年での利用を中心に考えた。ただし、実際には第5学年においても、国土の様子や地理的・気候的に特色のある地域の生活等が学習内容に入っており、それらの学習項目での利用も考慮に入れる必要がある。

社会科では、3・4年生をまとめて中学年として扱い、学習内容も3・4年生を通じて弾力的に扱うようになっている。

中学年では地域の公共施設の利用や人々の諸活動に関する内容と市町村の様子に関する内容、地域の生産活動と消費活動に関する内容、地域の移り変わりや地域における先人の開発の努力に関する内容を集約統合して学習する。

この視点に立ち、このシリーズでは、小学校中学年から中学校での社会科や総合的な学習の時間での利用を想定し、分類目次・地域目次・撮影目次をつけ、欲しい情報にたどりつきやすいような仕組みや、それぞれの写真には100～200字程度のコメントを入れ、学習にすぐ利用できるように配慮した。また、見ているだけでも自然に地域の情報に触れることのできる作品となっている。

資料2



## 実践結果

- (1) デジタル映像をマルチメディア・データベース化して正しく保管し随時閲覧

前述した視点から、児童が地域の学習を進める際に必要となる各地域の資料を学習内容にそって選定し、平成12年度には「雪国の暮らし」、13年度には「川と暮らし」をテーマにして、各テーマ4本（各15分）のハイビジョンビデオと、各テーマ1,000枚の静止画データベース（CD-ROMとWeb）を制作した。

情報収集にあたっては、撮影したハイビジョンテープからどこでも閲覧可能なVHSテープにダビングし、静止画については銀塩フィルムからスキャニングしたフォトデータを精選し、約1,000枚のデジタル画像をCD-ROMとして固定した（デジタルカメラは技術革新が著しく、技術の進歩によりデータが陳腐化する可能性があり、現時点では銀塩フィルムからのスキャニングを選択）。

CD-ROMについては県内の各機関、全小中学校に1枚ずつ配布し、またVHSテープセットは県内全市町村教育委員会等に1セットずつ配布している。

また、ビデオ内容は岐阜県教育センターを通して、教育情報衛星通信ネットワーク（エル・ネット）で全国に配信した。

- (2) マルチメディア・データベースについてインターネットを利用して、広く情報発信

作成したCD-ROMと同様の情報は、当生涯学習センターホームページに掲載し、インターネットを通じて、どこからでも静止画情報にアクセスできる。【<http://cscns.csc.gifu.gifu.jp/syozo/center/>】

- (3) デジタル・アーカイブス事業の相互連携と協力

今後、ここで収集管理した地域情報を、単純に保存し、教育や観光の素材などに供するだけでは地域経済の活性化やまちづくりにはおぼつかない。

膨大な文化遺産を誇る京都では、伝統産業も参加した「京都アーカイブ推進機構」を発足し、伝統文化のデジタル化が進みはじめている。今後、地域の文化をいかに活用し、新しい産業に結びつけるかという視点が重要となる。

地域情報は、全国の情報を収集することが大切である。そのために、他県とのコラボレーション（共同作業）ができるような仕組みにすることが大切となる。たとえば、岐阜県が全部収集するというのではなく、それぞれの情報発生源で入力し、

それぞれの県でこれを利用することにより、効果的になる。

次に、県内の地域情報に関しては、地域資料の収集のもっとも困難な問題として、各地域の協力体制をいかに構成するかであった。その体制も各地域で異なり、地域の特性に適応した組織構成が必要となる。これらの点に配慮しながら、3つの地域で作成委員会を発足した。委員長を先頭にして精力的に情報を収集し、「20世紀の地域の現状を記録して、21世紀に伝える」ということを一つの目的として進められた。

ここでも重要な事項は、地域の人々が主体的に情報内容の整備、蓄積、流通ができる人的環境づくりであった。

そのために、行政関係者や教育関係者のみならず、地域の人々や企業を含めた幅広い人々の参加により、各地域、施設、学校、企業など社会の各場所に存在する情報を社会のニーズに応じデジタルアーカイブ化し、これらの情報をネットワーク上で有効に流通・活用させる支援を行うために、「地域資料デジタルアーカイブ化協議会」とNPO法人「地域情報化コンソーシアム」を発足し、継続して地域資料のデジタルアーカイブ化を推進している。

## 考察(今後の課題)

今後、本システムで構築した地域素材情報や所蔵資料は、『総合的な学習の時間』の導入によって、学社融合の観点からも重要となると考えられる。

また、社会教育施設や地域社会と学校との連携がますます必要となり、このシステムがこれらの架け橋としての機能を果たすと期待される。

すでに現在、このシステムを利用して、小学校から大学においてさまざまな授業で活用している。また、教育センターや生涯学習施設において、本システムの利用研修会も開催されている。

今後も、学校と社会教育施設との協働（コラボレーション）の実現に向けての推進役として横断的な役割を果たし、豊かな生涯学習社会の実現に向けて積極的に取り組んでいきたいと考えている。

また、制作したコンテンツに関しては、現在のビデオ・CD-ROM配布の形を、動画情報のDVD化、インターネットでのストリーミング配信など、配布メディアの進歩やブロードバンド化など、その時々技術に合わせた情報発信の方法を模索していきたいと考えている。